

抑肝散の眼瞼痙攣の治療における役割

A role of Yokukansan medication in patients with Blepharospasm

○ 原 直人、大野 晃司、鈴木 裕美、向野 和雄

神奈川歯科大学附属横浜クリニック眼科学講座

The effect of Yokukansan (TJ-54), a traditional Japanese medicine, on patients with 13 Blepharospasm patients was studied. All patients took for 2 weeks first. Ten elderly patients showed a decrease in the Face-Scale rating of symptoms. Improvement of irritability/lability was observed. However, significant improvements were not observed in degree of spasm. The present study suggests that Yokukansan is an effective and possibility of a treatment for patients with Blepharospasm for psychological symptoms.

【目的】

眼瞼痙攣は、運動異常であるジストニアの局所型で、現在ボツリヌス毒素（Botox®、以下 Bx）注射が第一選択になっている。しかし、局所的な治療だけでは十分な効果が得られない改善されない症例が散見される。一方、薬物療法における抑肝散の眼瞼痙攣に対する有効性が報告され、また近年、認知症に伴う BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia) に有効との報告がある。眼瞼痙攣の薬物療法における抑肝散の役割について報告する。

【対象・方法】

眼瞼痙攣 13 名（男 4 名、女 9 名）、平均年齢 65 ± 10 歳（47～77 歳）である。抑肝散 (TJ-54) 7.5g / 日分散投与、2 週間後に評価を行った。評価方法は、自覚的症状の変化を Face-Scale により、他覚的な評価では Jankovic の評価スケールの「頻度スコア」を用いた。効果がない場合には、Bx（12 例）あるいは眼瞼挙上手術（4 例）を行い、その後に再度評価を行った。

【結果】

抑肝散により、10 名の老年者に機能的失明によりもたらされる不安感・イライラ感また羞明感といった自覚症状に改善が認められた。一方、中年層 2 例と抗パーキンソン薬内服している 1 例には改善効果を認めなかった。また他覚的な痙攣頻度は全例で変化を認めず、12 名が Bx 治療を継続して行い、眼瞼下垂症を伴う 2 例に眼瞼手術を行った。

【考察】

抑肝散は、ジストニアにおける運動制御系の抑制効果は少なく、精神的な自覚症状の改善に働くものと考えられる。加齢による効果の差は、ジストニア発症時の脳内機構の何らかの違いが関与していると思われる。

【結論】

抑肝散の眼瞼痙攣に対する役割は、精神的な自覚症状の改善である。